令和５年度　糸魚川ジオパーク学術研究奨励事業　研究概要

№２　山口 弘幸（鎮西学院大学）

【研究の名称】

糸魚川ユネスコ世界ジオパークにおけるユニバーサルデザイン化の推進に向けた基盤強化と人材育成に関する調査研究

【背景・目的】

糸魚川ユネスコ世界ジオパークのユニバーサルデザイン化の更なる意識醸成とツアーガイドにおける対応力向上を目的に、認定ジオガイドへの企画研修を実施し、コース設定の実現可能性を具体的に検討するための基礎資料を制作する。それらを踏まえて糸魚川ユネスコ世界ジオ―パークのユニバーサルデザイン化の推進方策についての検討を行う。

【研究内容】

本研究は2022年度からの継続研究であり、糸魚川地域を中心としたユニバーサルツーリズムの対応可能性のあるジオ拠点のゾーニングや宿泊、多目的トイレ、買い物や食事等も踏まえたジオツアーコースのパッケージ化した調査結果を踏まえて、更なるコースの検証とソフト面の対応充実を目指した認定ジオガイドへの企画研修を実施した。講義及びコースでの車いす移動介助の体験を行い、その後アンケート調査を実施した。さらに本研修に関わったユニバーサルツーリズム支援団体によるユニバーサルツーリズムの視点からみたジオツーリズムの検証も実施された。

【研究のまとめ】

アンケート調査による認定ジオガイドの意見として、各施設の課題とともに今後の推進に向けて、行政や観光協会の方々の研修への参加の要望や介護の仕事の経験を活かして移動介助の対応が可能であることなど積極的かつ前向きな意見が寄せられた。総じてコースを育む内部関係者の意識の醸成や対応力向上の意識づけにつながったことが推測される。また研修の様子は、地元紙である糸魚川タイムスに掲載され、糸魚川ユネスコ世界ジオパークの普及とユニバーサルツーリズムの啓発にもつなげることができた。さらに柏崎ユニバーサルツーリズムセンターによる障害当事者との追加調査によって、昨年度の学術研究調査の補完検証が図られ、更なる改善点の洗い出しとともに介助付き旅行の実施に向けた準備調査に結びついた。

今後の発展課題として、ユニバーサルツーリズム支援団体、観光行政、観光協会の三者の連携強化し、ユニーサルツーリズムの受け入れ態勢の整備に向けた相談対応のスキームを確立すること、ジオガイドへの継続した研修機会の確保と移動介助付きガイドの検討、車いすの方が楽しめるジオ拠点施設の情報標記とバリア等も含めた積極的な情報発信が重要である。

【参考資料】

山口弘幸(2023)「糸魚川ユネスコ世界ジオパークを活かしたユニバーサルツーリズム推進の課題の検討」鎮西学院大学現代社会学部紀要22(1)、pp.45－56

山口弘幸(2022)「島原半島ユネスコ世界ジオパークにおけるジオガイドへのユニバーサルツーリズム研修と検討課題」地域総合研究所紀要20(1), P105－114

糸魚川タイムス(2023)「ジオガイド現地で車椅子体験」記事, 2023年11月6日

糸魚川タイムス掲載記事（2023年11月6日掲載、記事使用許諾済み）

ジオガイド

現地で車椅子体験

高齢や障害の有無にかかわらず、誰もが安心してジオパーク観光が楽しめるようにと4日、糸魚川ジオパーク観光ガイドの会を対象に糸魚川市内でユニバーサルツーリズムの研修会が開かれた。会員8人が参加し、講義やジオ施設の車椅子体験などを通して、学びながら課題や改善点を探った。

糸魚川で研究調査

ユニバーサルツーリズム研修会

高齢者 障害者 ジオ観光を支援

糸魚川ジオパーク学術研究奨励事業の一環。全国各地でジオパークのユニバーサルデザイン化に取り組む鎮西学院大（長崎県諫早市）の山口弘幸教授が糸魚川でも調査研究を進めており、昨年は障害者や高齢者に配慮したジオツアーの企画開発を検討。コースの検証や人材育成が必要とし、今年はジオガイドの研修による調査を行った。

実地研修は、車椅子利用者の旅行支援や観光ツアーを実践する「柏崎ユニバーサルツーリズムセンター」の押見敏昭事務局長が講師を務め、フォッサマグナパークなどを巡り車椅子の操作や移動支援、配慮を教えた。

参加したガイドは介助者と車椅子利用者を交代し、「押してみないと、乗ってみないと分からない」と実感。

磯貝謙二会長（79）は「2人いれば車椅子の方も案内できる」と話し、スキルの習得や人員の確保なども検討課題としていた。

糸魚川ジオパーク観光ガイドがフォッサマグナパークで車椅子利用者と介助者を体験。足の不自由な人も間近で断層を見学できるようにはぎ取り展示が設置されている